

第13回フォーラム in JMER(2024年7月27日)

日本重度重複障害教育研究会

令和6年7月27日に、新宿ミッドウェストビル1階アビリティーズ・ケアネット(株)本社ショールームを本会場とし、「建設的対話を考える～インクルーシブ教育と地域生活～」というテーマで「第13回フォーラム in JMER」を開催しました。昨年度同様に、来場型とWeb会議システムを活用したオンライン参加型のハイブリッドで開催しました。

午前は、認定NPO法人DPI日本会議 事務局長の佐藤聡氏をお招きし、「建設的対話と総括所見を考える」という題目で全体講演が行われました。その際に、JDFの取り組みと実際に行われた日本の建設的対話の様子、総括所見(勧告)について「勧告24条 教育」を中心にお話をいただきました。また質疑応答の時間では、会場フロアからもオンライン参加者からも質問があり、「最近の動きについて」「条約の勧告が出てからの日本の対応について」も追加でお話ししていただきました。



全体講演の様子



全体講演 会場の様子

午後は、はじめに「業界と民間事業者の合理的配慮への取り組み」についての報告がNPO法人日本アビリティーズ協会・理事の中村靖彦氏よりありました。この中で、東京都福祉のまちづくり条例推進計画について、令和1年と令和6年の計画内容の比較や、新規事業について触れられました。



報告の様子

第13回フォーラム in JMER(2024年7月27日)

日本重度重複障害教育研究会

次に行われたシンポジウムでは、話題提供者に全体講演講師の佐藤氏、報告を行った中村氏に加え、東京都立水元小合学園 統括校長の米谷一雄氏の3名をお招きし、「平等及び無差別」・「地域生活」・「教育」の観点からお話いただきました。その後、本研究会前会長の猪瀬義明氏を指定討論者とし、各観点から見たインクルーシブ教育の在り方について議論が進みました。



最後に、現地2グループ、オンライン1グループに分かれてワークショップを行いました。参加者は今までの議論を元に、さらに自身の考えや実際に日々感じていること、課題と感じていることなどについて参加者同士が互いに情報共有を行い、考えを深めました。さまざまな立場で議論を深めることで、オンライングループからは「同じ場で過ごし、知ってもらうことの重要性」であったり、「意思決定や自己決定の在り方についての考え方」が挙げられました。現地の2グループからは、「合意形成を行うことの大切さ」や「地域のコミュニティ活用の可能性」、また「学校現場での取り組みについて」などが挙げられました。



ワークショップの様子（現地）



ワークショップの様子（現地）

総評として佐藤氏より、「分離することが差別につながっている」ということから「どのような場所においても必要な支援を受けられるように」という「同じ場で過ごす」ことに必要な視点や、「現在、自己選択権・決定権が本人と保護者がない」という解決しなければならない課題について触れ、「今後の日本の取り組みについて注目をして欲しい」という将来に期待する内容で会を終えました。